

●支援対象：木津自治会（篠山市一木津地区一）

○林間学校をめぐる経緯

- ・県の教育委員会が管理運営していた林間学校が閉鎖されることになった。その跡地利用をめぐる約3年間協議を重ねてきた。一時はパターゴルフ場として再整備の計画作りも着手していたが、プランで管理する地元と合意に至らず、結局廃止することとなった。すでに建物はほとんど撤去され、跡地のみとなっている。かつては活況を呈した林間学校だったが、ダム建設に伴い、谷川が枯渇し、環境的魅力が半減し、利用者の減少と公共施設管理の見直しに伴い廃止される形になった。県会議員や市会議員と住民の約束などもあり、地元は十分納得していない。林間学校の建設時には、地元が無償で土地を提供したこともあり、「返してほしい」というのが本音のようであるが、いったん公共財として利用したからには、無償変換はできず、公益性のある利用にともなうことになっている。そうした状況の中で、利活用権限が県から篠山市に移り、篠山市では教育委員会から土地利用計画として開発指導課が担当することとなった。市の担当者は、里づくり計画の一環として取り組む旨を挨拶も兼ね、地域で行なおうとしたが、詳細な説明前に追い返されることとなったらしい。説明前に過去のいきさつ説明を求める形になると聞いた。

○今年度の取り組み

- ・過去のいきさつはあるにせよ、住民が要望し、公共が実現する時代ではなく、地域が責任を持って働きかけて実践していく時代である。このため、冷却期間をおき、地元で少し落ち着きを取り戻せば、地域づくりやまちづくりに関する学習会を一緒に行いながら、跡地問題を考えようと市と自治会役員と合意し、第三者的な立場で、より市民に近いNPOのたんばぐみからコーディネーターを派遣することとなった。まずは3年間に渡る教育委員会との協議の議事録から目を通し、これまでの経緯の理解に努め、その後2回役員との打ち合わせを行いながら、地域と協議の場を設定することとなった。改めてというよりも、継続して行われている、地域の会議の場に出席するスタイルをとることとなった。意見交換を行い参加者と一緒に跡地について前向きに考える体制を地元でとる約束の下に、2回目の協議が行われた。確かに地元の実行委員が組織され、跡地問題を考える体制はとられているようだったが、少し協議してみると跡地利用計画を立て地元で運営管理する体制を取れば、土地が払い下げられると理解しているようだった。それは違うと説明すると、それでは約束が違うと言い出した。土地が返ってくるからこうして夜集まっているということだったので、もう一度土地は法律が変わらない限りかえってくるものではないことを明確にし、そのうえで跡地計画を立てるのであればまた協議をおこなうことで、市とたんばぐみは帰途に着いた。数ヶ月が経過し、アドバイザーの考え方を聞かせてほしいという連絡が入り、この3月学習会という形で講演を行った。質疑になり、協議し出すと、土地が返還されないことが徹底されていない。過去に協議した内容も参加していない人には伝わっておらず、今日は何のために開かれている会議かさえも伝わっていないような雰囲気、質問も過去のいきさつにこだわる方やいつ土地は返ってくるのか質問する人など、認識がばらばらだった。このためこの日も十分な協議に至らずこちらの考え方を伝えたのみに終わった。
- ・以上、今年度の行った日程は、以下のとおりである。

取組事項	内 容		備 考
	実施時期	活動内容等	
	7月10日(土)	事前打ち合わせ①—意見交換—	—
	7月25日(日)	事前打ち合わせ②—意見交換—	1回
	8月7日(土)	跡地問題協議会に出席—意見交換—	1回
	11月20日(土)	跡地問題協議会	1回 ・町担当課参加
	3月12日(土)	○まちづくり学習会	1回
		計	4回
○添付資料 ・当日資料			

